

地域コミュニティ形成

土浦第一高等学校 2班
2年B組高山晴香 2年C組五味咲優花
2年C組外山未凰 2年組E組神田想葉
指導教諭 鈴木美樹先生

【Abstract】

We've defined "local communities" as local groups that can create intergenerational exchanges between children, young people and the elderly. Now, not only Japan, but also Tsuchiura city lack of community.

So we thought we could somehow create a local community, then we decided to organize an event called "Piyo Piyo school".

【要旨】

私たちは、地域コミュニティを、子ども・若者・高齢者の異世代間の交流を生むことができる地域集団、と定義した。現在日本では地域コミュニティの不足が問題となっていて、土浦市でも不足しているという現状がある。そこで私たちは地域コミュニティを作ることはできないかと考え"ぴよぴよスクール"というイベントを開催した。

1.序論

1-1 地域コミュニティとは

地域コミュニティとは、現在幅広い意味で用いられている。私たちは、地域コミュニティを、子ども・若者・高齢者の異世代間の交流を生むことができる地域集団、と定義した。この地域コミュニティがあることは、私たちが生活する上で様々な利益をもたらす。例えば、災害時・非常時の助け合いや、子供や高齢者の見守りなどの地域の防災・防犯対策、不登校の子どもを社会へとつなぐ地域での福祉機能を果たす、というように多くの点で役に立つ。

1-2 探求動機

研究動機として地域コミュニティの不足が挙げられる。内閣府で「普段の生活で家族以外に若い世代との交流の機会はあるか」という調査を60歳以上の方にしたところ平成15年は「ない」と回答した割合が52.8%で半分を超えている。また、平成5年、10年と比較すると年々その割合が増加していることから地域コミュニティが不足しているということがわかった。このことから、土浦市にもコミュニティ不足の現状があるのではないかと、仮説を立てた。

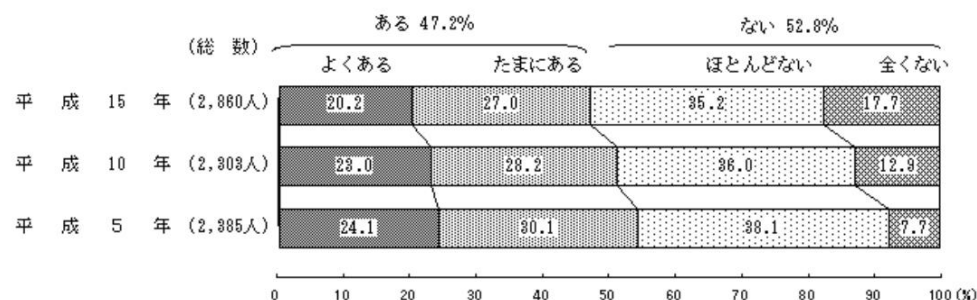


図1：若い世代との交流の機会の有無

内閣府 平成15年度 高齢者の地域社会への参加に関する意識調査結果 より引用 (※1)

土浦市での現状を探るため、地域コミュニティを重視して活動を行っている、子ども食堂のひよこ食堂さんを訪問し、代表者の荒井さんに定期的にお話を伺った。

ひよこ食堂さんでは、コロナ流行前は食堂でみんなで一緒に食事をする形をとっていた。また、フリーマーケットやイベントも行われていた。しかしコロナ流行により感染症対策をせざるを得なくなり、食事を一緒に取ることはできなくなった。それでもお弁当を配布するという方向に切り替えて、現在まで活動を続けてきている。以前は和気藹々とした雰囲気活発にコミュニケーションが取られていた食堂も、現在ではお弁当を受け渡す際のほんの短い会話のみになってしまっている。コロナ対策により、いままでのコミュニティが失われてしまった。

そこで、私たちは地域コミュニティを形成する方法を考えた。

2.本論

2-1調査方法

実際に自分たちで地域コミュニティを形成するためのイベントであるぴよぴよスクールを開催。

〈目的〉

地域の子どもと大人との間での世代を超えたコミュニティ形成

〈場所〉

都和公民館

近隣小学校の学区内にあるため子どもたちからのアクセスが良い

公共施設であるため地域の人々からの社会的信頼がある

机、椅子や空調設備などが備えられている

〈対象者〉

小学生、大人

〈留意点〉

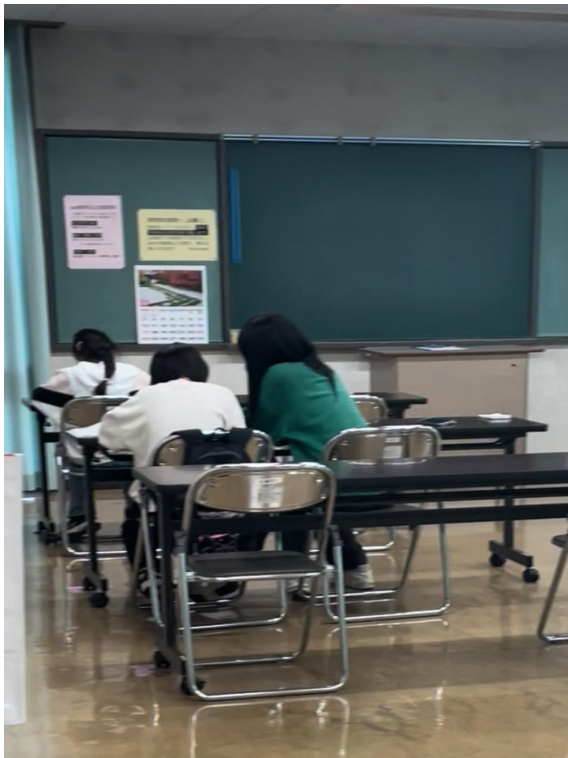
コミュニケーションが生まれる場所を提供することを重視。

- ・主催者側で明るい雰囲気づくり
- ・ゲームの用意
- ・お菓子の用意
- ・地域のニーズに合わせたイベントを企画
- ・利用者に金銭面で負担をかけない

このことを踏まえて、参加者どうしの交流が生まれるよう声掛けをしたり、勉強する際の配置をコの字型にしたり、参加者・主催者全員でゲームをしたり、お菓子を用意したりして、無償で場を提供した。

2-2 調査結果

5人の地域の大人と6人の小学生が参加した。イベント中には、小学生が真剣に勉強する様子や、イベント参加者全員で楽しく遊ぶ様子が見られた。また、勉強での疑問点は私たち高校生と一緒に解決することができた。



写真：小学生と高校生が交流している写真



図 2: 実際に使用したイベントのポスター

3.考察

実際に子ども5人、大人6人の参加を得て、異世代間の交流を生むことができたことから、公民館を会場にすることや勉強や遊びをする場を提供したことは、コミュニティ形成に効果的だったと言えるだろう。

4.結論

地域コミュニティを作るためには、十分に機能する場所と環境を提供することが不可欠である。これは単に物理的なスペースを確保するだけでなく、人々が集まりやすいアクセスの良さや、安心して過ごせる安全性、交流を促進するための設備が整っている。

さらに、人々が地域コミュニティ形成に意欲的に関与できるよう、地域のニーズに即した活動内容やプログラムを提供することも重要だ。

このような場があることで、人々は自然と集まり、異世代間の交流が深まり、地域コミュニティの形成に繋がるだろう。

5.今後の展望

今回は金銭面で負担をかけないことにこだわったが、ザインエレクトロニクスの飯塚様から、利益を生むことがコミュニティ形成の活動を広げることに関わることのご指摘を受けた。そのことか

ら、今後地域コミュニティの活動が何らかの形で利益を生み、持続可能な形で広がっていくことを願う。

6.謝辞

NPO法人みんなのたまご、土浦市役所の職員の方々、インタビューに協力してくださった皆様に感謝申し上げます。

7.参考文献

(※1) 内閣府 平成15年度 高齢者の地域社会への参加に関する意識調査結果
https://www8.cao.go.jp/kourei/ishiki/h15_sougou/html/2-22.html